

㊦ (小計56点)

問一 (12点) 外の生垣の火を消しながら、家の中も見回らなくてはならず、いちいち靴を脱いだりはいたりしては間に合わないから。

問二 (18点) 空襲により家族の死を覚悟した父は、一個人ではどうしようもない戦争で、幼い子供たちを飢えたまま死なせるのが家長として無念であったため、不謹慎と思われるようが、せめて最後は家族にうれしいものをおなかいっぱい食べさせようとしたということ。

問三 (16点) 家計が厳しい中、母が貯めたへそくりで、家族には内緒で自分一人だけ鰻を食べるのはうしろめたく思われ、母がそれほど気づかいを見せるほど自分は深刻な病なのだと思しきを感じてから。

問四 (10点) 二つのごはんが、単においしかったというだけではなく、後ろめたさや悲しさとともに、死を身近に感じながら食べたものだから。

㊧ (小計34点)

問一 (16点) 一人一人が自分の意見を持ち、他者を気づかいながら、よりよいものを目指して率直に意見をぶつけ合うという対話のある社会。

問二 (18点) 個人の希望や選択を重視し、相手を否定しないことが「個を尊重する社会」の流儀だが、否定されたかどうかの判断は受け手側がするので、相手の感情を損なわないために、「人それぞれ」という言葉を使って穏便にやりすごすしかないから。

㊨ (小計10点)

(2点×5)

- | | |
|----------|---------|
| (1) 枚挙 | (2) 無愛想 |
| (3) 奮 | (4) 比類 |
| (5) 明朗快活 | |

【出典】

㊦ 向田邦子「ごはん」『向田邦子ベスト・エッセイ』より

㊧ 石田光規「人それぞれ」がさみしい』